

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
10	川崎市立 東小田小学校	坂東 修

学校教育目標	今年度の重点目標	
「あなたが主役の学校」 根気強く、自分で考え自ら進んで行動する、健康で思いやりのある子	(1) 確かな学力の育成 (2) 心豊かな子どもを育てる (3) 地域に根ざした特色ある学校づくり	・基礎・基本的な知識及び技能の習得とその活用を図る ・人権尊重教育の推進 ・コミュニテースクールの推進

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1	①指導方法の工夫改善 ○子どもたちに確かな学力を身につけさせるために、基礎・基本に重点を置いた指導、「わかる・できる」の指導方法改善に努める。	国語の校内研究を通して、語彙を増やすことや漢字の定着などをめざし、取り組んだ。また、校外学習やゲストティーチャーなど学習活動の機会を増やした。	新学習指導要領に即した、主体的で対話的な深い学びの学習ができるような学習の手立てをとる。校内研究などで、実際の指導場面などを研究していく。
2	②主体的な学びを育む学習の展開 ○人の話をよく聞き、考え、表現する活動を通して、学んでいく力を高める授業に取り組む。	昨年に引き続き、校内研究「なるほど。そうなんだ。わたしはね」をテーマに、授業実践した。一人一実践の授業を講師に講評していただくことができた。	話すこと、聞くことを中心にさらに校内での研究を進める。学習のめあてを明確にし、見通しをもたせ授業に取り組めるようにする。
3	③支援教育の充実 ○支援を必要とする子どもの教育的ニーズに応える体制づくりを推進する。	全体指導では、指導が難しい児童が多く、個々の対応ができないことがあったが、児童支援コーディネーターによる取り出し学習の支援を充実した。欠員が生じ、きめ細かい指導ができない場面があった。	来年度も、取り出し学習の充実を図る。人材の確保をして、丁寧な指導体制ができるようにしたい。
4	④評価の妥当性・信頼性 ○学習目標に準拠した評価、観点別学習状況の評価とそれを総括的にとらえる評価を行う。	保護者への説明を行う面談を設定したことにより、評価の根拠や規準、基準をより明確にして評価する機会を得た。評価委員会では、他学年の評価を前後の学年のつながりも踏まえて話し合い妥当性を高めることができた。	評価の根拠となるものを明確にし、説明責任を果たすことが妥当性・信頼性を高めることにつながる。指導と評価の一体化を図っていく。
5	⑤読書活動の充実 ○子どもが本を読む機会を積極的に設けたり、図書室を活用したりする。	朝読書の時間の確保をした。また、学校司書と児童の委員会活動をつなげて、図書室の利用数も増えた。図書ボランティアによる読み聞かせ、講師による「おはなしかい」などの機会も増やしてきた。	学校司書による環境整備、読書案内が充実してきたので、図書室の活用、本に触れる機会の増加を図る。
6	⑥家庭学習の習慣化 ○学習したことの定着を図るために、家庭学習を積極的に進める。	継続してきたことにより、少しずつ家庭学習が習慣になってきているが、家庭により差がある。保護者の理解は深まってきた。	保護者の理解が深まり、少しずつ習慣になってきているので、家庭と連携しながら定着を図りたい。学年ごとにワークシートなど工夫して、さらに定着を図っていききたい。
7	⑦基本的な生活習慣の充実 ○時と場に応じてきちんとあいさつができるように指導をする。 ○学校のきまりの徹底を図る。	学校長が正門であいさつしたり、教職員が進んであいさつしたりすることで、子供たちの意識も高まってきた。 学校の決まりについては、毎年同様の指導を続けてきたことで、子供たちも理解が深まってきた。	あいさつの良さが実感できるよう、朝のあいさつ運動や、委員会活動、PTA活動でのあいさつ運動も継続する。 職員で共通理解して、指導を継続していく。
8	⑧人権尊重の推進 ○いじめの早期発見、早期対応につとめる。 ○不登校への対応を丁寧に行う。 ○自己肯定感を育て、所属感を持たせる。	いじめについて早期発見を心がけた。不登校気味の児童やその保護者に寄り添い、個別にも対応してきた。ポジティブな言葉がけで子供たちの自己肯定感を高めてきた。	子供の表情や行動をよく見つけ、早期発見につなげる。学校全体で、児童指導を行い、職員全体で児童に目を向け、寄り添う。ケース会議等で、情報の共有、指導方法の精選などをすすめる。

9	⑨共生共育の推進	○かかわる力を育成する。 ○異学年交流を推進する。 ○外国の文化に触れる活動を行う。 ○インクルーシブ教育を推進する。	効果測定の結果をもとに、共生共育プログラムの内容を選定した。学級で必要とされるかかわり方を学ぶ機会を作れた。交流学年の教室を近くにするこで、自然と関わりあうことも増えてきた。	効果測定の結果を活用するとともに、異学年での活動についても、さらに充実させていきたい。行事や集会活動などで、異学年が交流して活動することなども検討していく。
10	⑩教育環境の整備・充実	○校舎内外の掲示板を計画的に活用する。 ○整理・整頓・清掃・清潔な学級学校づくり	今年度は保護者が来校する機会も増え、校内の掲示物などもたくさん公開することができた。学年ごとに割り振られた掲示板を、学習成果の発表に活用してきた。	季節や学習内容が伝わるような掲示に取り組みたい。継続して学校の環境整備に努める。
11	⑪健康・安全教育の実施	○安全に関する指導及び点検と健康・安全に関する指導を計画的に実施する。 ○自らの体力を知らせ、教科・特別活動・児童集会・キラキラタイムなどで計画的に体力向上をめざす。	避難訓練の振り返りを1回ごとに丁寧に行い、日常に生かせるように指導を続けてきた。体育委員会などによるイベントで体力テストをしたり、集会をしたりして体力向上に取り組んだ。	低学年でも分かりやすい安全教育の充実を図る。引き続き朝の校庭開放し体を動かす機会を設ける。また、雨上がりに校庭が乾いていたら放送で外遊びができることを知らせ、外遊びを促す。
12	⑫コミュニティ・スクールの推進	○保護者・地域住民の学校教育への理解と協力を得る。 ○コミュニティ・スクールの特性を生かした教育活動を推進する。 ○地域・PTAや関係機関とも連携して、子どもが安心して生活できる学校になるように努める。	コミュニティや地域の方々にたくさん関わる行事などを今年度は進んで実施するようにした。ゲストティーチャーなどは精選すると共に、積極的に実施した。コミュニティの会議や学校運営会議などは回数を見直し、内容の充実を図った。	地域の方と連携して学習や行事に取り組んでいく。また、コミュニティスクールのメリットを生かして、行事などではなく、普段の授業にボランティアなどを依頼していくことを進めたい。
13	⑬安全体制の確立	○保護者や地域の方々と協力をして、安全パトロールを実施する。 ○各種訓練(防災、防火、防犯、津波)を行うとともに、学校防災マニュアルの改善と徹底を行う。	PTAの朝のあいさつ運動は、一定数の参加者を確保しながら継続してきた。避難訓練は津波の場合、休み時間の場合など様々な状況を計画的に実施できた。また、防犯訓練も実施した。	防犯訓練の実施。PTA活動の朝のあいさつ運動は、来年度も連携して行っていきたい。気軽に参加できることを周知して、参加者も増やしていきたい。
14	⑭積極的な情報発信	○コミュニティだより、学校だよりを地域に配布、ホームページでの公開等で、理解を深めてもらえるよう、積極的な配信を行う。	コミュニティだよりや学校だより、校内の掲示物等で積極的な発信を図っている。また、臨時のお知らせ等ホームページでの公開を行った。	ホームページの活用と、保護者や地域の方に見ていただけるよう啓発していく。また、配信メールでの情報発信も考えていく。
15	⑮学校評価の実施と学校説明会・報告会	○学校評価システムに基づいて、評価活動を行う。	保護者が実際に学校に来る機会が増え、直接声を聞くことも増えた。説明会、報告会はGIGA端末を活用して効率的に伝えることができた。	ホームページの活用を図り、周知していく。
16	⑯教員としての資質向上	○授業を積極的に公開して指導を仰ぎ、教員としての資質・能力の向上を図る。 ○実技研修等に参加することにより、自己研鑽を図る。	研究授業や、校内外の研修に参加し、資質向上を図った。職員の希望に沿って、教科の研修も計画して実施した。	校内での研修を開催する。それぞれの得意分野をもつ教員に指導を仰いぎ、積極的に自己研鑽を図る。
17	⑰学習指導要領の理解と検証	○教育課程や年間計画の実践を通し教育活動の検証をする。	教育課程の中で、体験や専門家の講話など、ゲストティーチャーや地域の人材、施設の活用を図った。見学や体験の機会を増やすことができた。	引き続き、教育活動の充実を図る。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
----------	----------

学習に臨む児童の姿が落ち着いている。教職員が児童一人一人をよく見て、指導支援している成果が表れている。職員室などへ来訪した児童が、クラスや名前、用件などをしっかりと話しており、大人に対して丁寧に話ができていると感じられる。自然とそうできるように掲示物があったり教職員が声かけをしていたりする工夫ができている。朝から元気がない児童については、朝食の喫食状況や、身だしなみなど、家庭での生活習慣による影響も考えられる。給食指導や食育の充実を図る必要があると考えられる。また、家庭での生活習慣について、もっと学校が関わる如果能够できれば、食育や家庭学習などの充実ができる。学校からの発信を増やして保護者に伝えていく努力が必要だろう。

今年度は、参観日、公開日も積極的に実施した。また、各学年で見学や体験活動、ゲストティーチャーの招致など、実感を伴う学習活動を充実させることができた。

校内研究「聞く・話す」が4年目となり、話を大切に聞くことや対話を通して学びを深める実践が進み、本校の学びの在り方が見えてきた。学習状況調査では、「自分の考えを伝えたり友達の話の話を聞いたりすることが楽しい」という解答が多く、少しずつ、協働する学びが充実してきているように考えられる。また、次年度も引き続き「外国語」の充実を図り、子どもたちの将来を支える「異文化コミュニケーション」への手立てとしたい。

本校で力を入れている「学習支援」では、児童支援COを中心に50名ほどの児童を取り出し指導している。いじめや不登校などの初期対応に注力し、教職員全体での声掛けを中心とした気づきの体制づくりを継続し、早期解決へとつなげていきたい。チーム東小田として、大勢の大人の目で子供たちを見守っていきたい。